

セアカゴケグモに注意して下さい！

東温市内で、特定外来生物「セアカゴケグモ」が確認されています。有毒のクモですが、人間に対する攻撃性は無く、愛媛県内の咬傷被害はありません。見かけた場合は素手で触らず、市販の殺虫剤等で駆除をお願いします。



セアカゴケグモとは？

セアカゴケグモ (*Latrodectus hasselti*)

【特定外来生物】

原産地：オーストラリア、東アジア、南太平洋諸国

雌にα-ラトロトキシンという神経毒があり、咬まれると激しい痛みや腹部痙攣を生じさせます。日本では咬傷被害による死亡例はありません。1995年に大阪府と三重県で国内初確認され、現在は日本各地で生息が確認されています。愛媛県では、2014年に初確認され、現在は東予、中予を中心に発生地が増加しています。

■営巣の特徴

地上部に営巣するクモと異なり、不規則な管状の巣を**地表の隙間に作ります**。巣には落ち葉等が付着し、クモの巣と判断できないことがあります。

■産卵と幼体

野外では一生の間で最大7～8卵嚢（らんのう）を産みます。1卵嚢あたりの卵数は100～200個で、産卵後約20日で幼体が出囊し、雌は約70日、雄は約40日で成熟します。



営巣場所と営巣状況



セアカゴケグモの特徴



不規則な白斑紋が出ることがあります。

背には黒地に赤い斑紋

歩脚は黒色

体長♀:7-10mm
♂:2-3mm

♀実物大



1つの卵嚢には100～200個の卵が入っています。



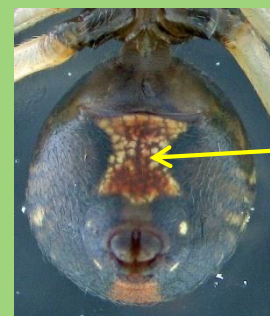
オスが見つかることは稀です。

セアカゴケグモ（雄）



出囊した幼体

1mm



腹部腹面に砂時計状の赤い斑紋

これはハイイロゴケグモなど、他のゴケグモ属のクモにも共通する特徴です。

人家周辺で見つかりやすい
セアカゴケグモに似た無毒のクモ



写真提供: 鶴崎展臣教授(鳥取大学)

オオヒメグモ

人家周辺でもっともよく見られる在来種のヒメグモ(無害)



写真提供: 鶴崎展臣教授(鳥取大学)

マダラヒメグモ

人家周辺でよく見られる外来種のヒメグモ(無害)

2種共に、腹部腹面に砂時計状の赤い斑紋はありません。

★外来生物被害予防3原則★

入れない

捨てない

拡げない

問合せ先 東温市環境保全課

TEL:089-964-4415

E-mail:kankyohozen@city.toon.lg.jp